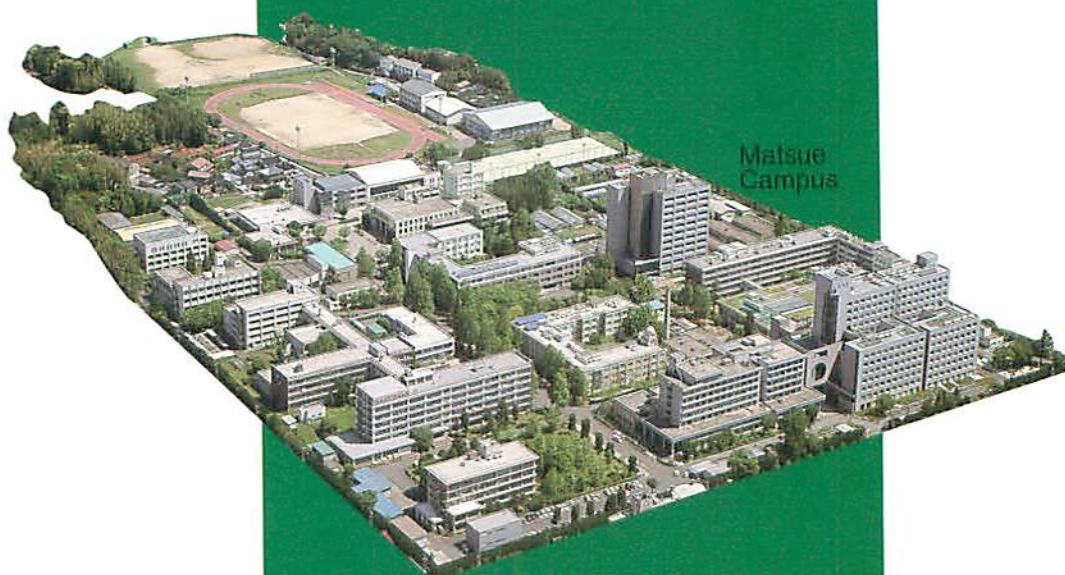
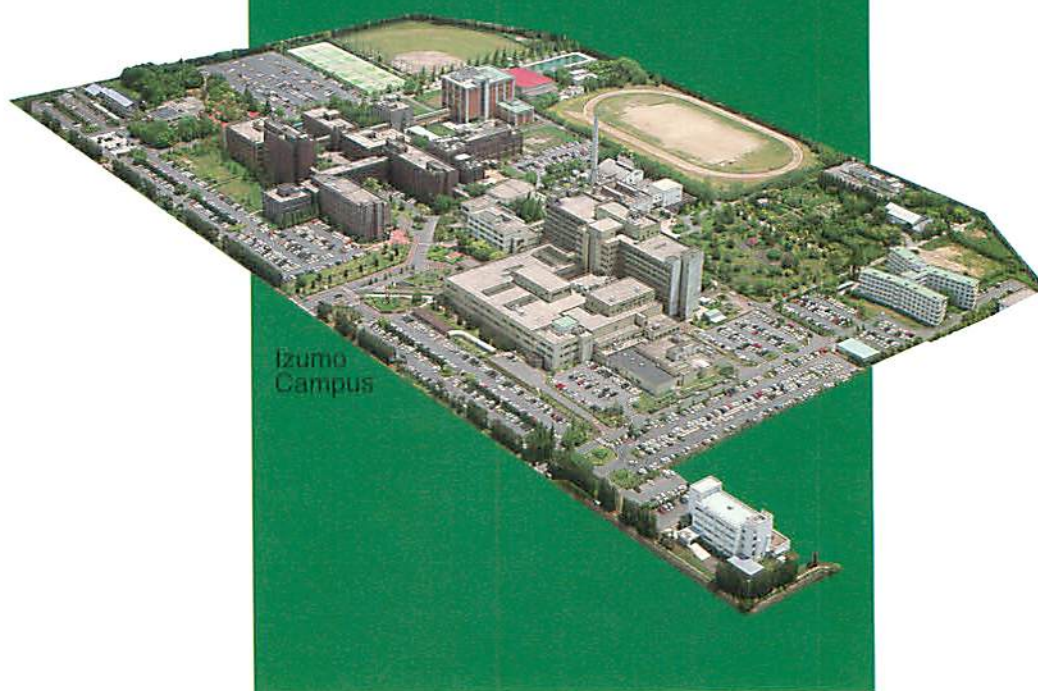




SUAA

Shimane University Alumni Association

島根大学同窓会連合会 機関誌
March.2007 Vol.1



島根大学同窓会連合会事務局

〒690-8504 松江市西川津町1060 島根大学附属図書館1F
TEL.0852-32-9725 E-mail:suaa@jn.shimane-u.ac.jp

同窓会連合会

活動状況

島根大学同窓会連合会 会長 江口 博晴

島根大学同窓会連合会は、島根大学と各同窓会とを結ぶ緩やかな連合組織として、平成17年12月に設立されました。各学部、旧制松高の同窓会と連携し、母校の同窓会活動の充実発展に努めてまいりますので、皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

平成18年度の島根大学同窓会連合会の事業としましては、昨年12月の役員会の開催のほか、次の事業を実施しましたのでご報告いたします。



○同窓会連合会事務室の開設

昨年7月、附属図書館(松江キャンパス)1階に同窓会連合会事務室を開設しました。事務室には、開学記念室資料の一部も展示していますので、お立ち寄りください。

○ホームページの開設

同窓会連合会及び各学部同窓会のホームページを開設しました。事業の案内等を掲載しておりますので、ご覧ください。(各学部同窓会のホームページについては、各同窓会のページをご覧ください。)

○機関誌の発行

各同窓会の活動報告、活動計画や同窓生の近況報告などを定期的にお知らせするため、同窓会連合会機関誌を発行いたしました。本号が第1号となります。なお、この機関誌に対するご意見・ご要望等がありましたら、同窓会連合会事務室までお寄せください。

平成19年度活動予定

- ホームカミングデーの開催/10月6日(土)
- 機関紙の発行
- 学部同窓会への支援
ホームページの構築及び運用管理
- 卒業・修了後の連絡先調査



同窓会HP/<http://www.suaa.shimane-u.ac.jp/>

「ホームカミングデー」のご案内

同窓会連合会では、ホームカミングデーを企画しました。詳細な内容については、今後、大学祭実行委員会、各同窓会、各部局、大学生協と協議させていただいて、決定していくこととしておりますが、決定次第にホームページ等でお知らせします。

なお、今回は松江キャンパスの大学祭(10月6日～10月9日)の時期に併せて実施することとしておりますので、松江キャンパスが中心となります。

この機会に、ぜひ母校をお訪ねください。

- 期日/平成19年10月6日(土)
- 企画内容/
 1. 同窓会連合会役員会等(11:00～12:00)
 2. 歓迎式典(14:00～)
(会長、学長挨拶、学生による演奏会など)
 3. 特別講演
 4. 在学生との交流会
(大学祭への参加、サークル紹介など)
 5. キャンパスツアー等
(ミュージアムを中心とした施設・資料の見学、学部等施設の開放など)
 6. その他(大学グッズ等の販売など)



法文学部同窓会

活動状況

母校島根大学が法人化に伴い、経営・地域貢献・人材育成等々大きな変革を求められているのと同様、法文学部同窓会も財政基盤の確立、現役学生との交流、全国の同窓生のネットワークづくり・情報発信等の課題に取り組んでいます。

平成18年から同窓会年報「澁春(しょうしゅん)」を毎年創刊することとし、同窓生から大学・現役学生に向けてのメッセージ投稿や毎年の同窓会活動の状況と内容とする情報発信を行っています。間もなく「澁春」(第2号)が発刊されます。年報の発行と併せて会費制度(年間3,000円)を導入し、財政基盤の確立に努めています。

また、平成16年9月の島根大学を会場に同窓生、教員、現役学生が集い、交流した同窓会全国総会の成功を参考に、平成18年9月16日(土)、同窓会ブロック総会を開催しました。同窓の固い絆により結ばれた同窓生相互の親睦を深めることを基本にしながら、加えて、同窓生と現役学生が「就職・職業」をテーマに情報交換、交流を行いました。

当日は、約100名が参加(概ね同窓生5割、学生3割、教職員2割の参加割合)し、総会の後、①法曹分野 ②マスコミ分野 ③公務分野 ④金融・保険・証券分野 ⑤商社・メーカー、小売その他分野 ⑥職業を考える分野の6つに分科会に分かれての意見交換が行われました。最後は全体交流会で盛り上がり、恒例の「青春の歌」の大合唱で締めくくられました。同窓会活動の基本は、楽しく語らう交流の場づくりであると常々感じています。



ブロック総会交流会の様子

平成19年度活動予定

平成19年は以下のような全国の同窓生の交流の場を計画しています。日程、場所等により参加しやすい方へ自由にご参加下さい。どちらの会に参加されても大歓迎です。参加の場合は事前に連絡をお願いいたします。

○関西支部同窓会総会・交流会

日時:平成19年6月11日(金)18:30~

場所:徐園(大阪市西区江戸堀1-15-30 tel.06-6448-5263)

会費:8000円

連絡先:岩崎利晴(文理29期、1981年卒)ノミズパートナーズ法律事務所
大阪市北区堂島1-1-25 tel.06-6442-0167 fax.06-6442-0703

○東京支部同窓会総会・交流会

日時:平成19年6月9日(土)18:00~

場所:KKRホテル東京(千代田区大手町1-4-1 tel.03-3287-2921)

会費:8000円程度

連絡先:東京支部事務局準備会(郵送又はメール連絡を希望)

宮地 忍(文理22期、1974年卒)
〒180-0023 東京都武蔵野市境南町2-8-6
tel/fax.0422-33-1450 E-mail:nadd8162@yomiuri.com

○法文学部同窓会定例総会・ホームカミングデー・交流会

日時:平成19年10月6日(土)13:00~夕方

場所:島根大学他

会費:5000円程度(調整中)

連絡先:島根大学法文学部同窓会事務局

吉山 治(文理29期、1981年卒)
tel.(携帯)090-7133-4980 fax.0852-32-6215
〒690-0821松江市上東川津町714-48 E-mail:pg041101@maile.ne.jp

*ホームカミングデーは島根大学同窓会連合会が主催するもので、講演、キャンパスツアー、在学生との交流、演奏会、大学見学会などが内容です。

同窓生からの近況報告



島大という〈大樹〉

八木 延佳

法文3期(1984年卒)

「演劇プランナー」「ドラマ ティーチャー」として大阪で活動しています。演劇関係の企画、講演、ワークショップ、大学や高校で演技・脚本の授業、企業でコミュニケーション力向上の研修などです。もちろん、島大には演劇学部はありません。在学中は、「西川津マガジン」というキャンパス誌の創刊、8ミリ映画の撮影、ミニFM局のDJ…卒業後は、国立文楽劇場、劇団四季、東宝戯曲研究会などで修行しました。私のような〈あだ花〉が咲くことができたのは、先輩方や同輩たちが太い幹を持ち、広く根を張った〈大樹〉をしっかりと育ててくれたからだと思います。
<http://homepage3.nifty.com/bunka-produce/yagi/>



若者・よそ者発の地域づくり演出

中村 文

法文22期(2003年卒)

現在、京都造形芸術大学の松江駐在スタッフとして、「松江武者行列」を企画運営しています。甲冑(かっちゅう)づくりのワークショップや、「松江はど着物のにあう都(まち)はない」プロジェクトなども企画し、各々のキーワードから、松江を知り、好きになり、まちのために動ける人を増やしたいと思っています。学生時代に、大学周辺だけの生活から、地域に出て活動したことで、「何もない」と思っていた島根が、自分が動けば「何でもできる」まちだということに気づきました。学生・県外出身だから見える島根の魅力。そんな「若者」「よそ者」と地元の人とがつながり、「島根だから出来る社会経験」をしていただけよう、後輩の皆さんにもスタッフなどで参加していただいています。



同窓会HP/
<http://www.gaku-sei.net/l-douso/>



教育学部同窓会

活動状況

教育学部同窓会は、今年度も予定されていた事業を例年通り推進しており、現在は第58号の会誌の編集・校正も終り、発刊される日を待っているところです。このところの会誌には、「新生島根大学教育学部から」という特集を組んで教員養成に特化した本学部の情報をお伝えして来ましたが、また、会誌の目玉として各研究による座談会を連載しており、このたびは社会科学研究室の登場していただきました。社会科学研究室の今昔物語にご期待ください。

学部は、現在右の写真にあるように、1期・2期棟の耐震工事で大変な状況にあります。

先生方の中には他学部棟への仮住まいを余儀なくされ、大きい部屋に何人もの先生が押し込まれたり、また残っている先生方も騒音・ホコリが容赦なく襲うなど、じっと辛抱の日々をすごしているのが現在の状況です。学部同窓会事務局も、現在は事務局のお世話をさせていただいている名村さんの自宅に避難いただいている状況で、大変ご不便をおかけしているところです。19年度には残りの3～5期棟の耐震工事も決まっており、当分の間学部内は混沌とした状況が続くと思われます。そして、平成20年の春には、新生教育学部にはふさわしい立派な建物になっていることでしょう。



平成19年度活動予定

- 4月6日(金)／島根大学入学式 くにびきメッセ
- 6月／平成18年度会計監査・役員総会
- 7月／同窓会誌原稿編集委員会
- 8月／同窓会誌掲載座談会打ち合わせ会
- 9月／同窓会誌掲載座談会
- 10月／同窓会編集委員会
- 12月／同窓会誌校校正会
- 2月／教育学部卒業生、3回生研究室(講座)代表者会・事務局会
- 3月／常任理事会
- 3月25日(火)／島根大学卒業式

同窓生からの近況報告



活気のある東京支部に

東京支部長 片桐 憲一
22期(1971年卒)

東京支部は現在会員が八十名程いて、毎年「定期総会」と「懇親会」を開催し、会員相互の親睦を図っています。昨年度は、伊豆七島(新島・式根島)旅行など特別企画も実施しました。しかし、以前は多かった会員の出席が、ここ十五年間は十名ほどの出席しかありません。出席者が減ってきた原因は、会員の高齢化と卒業生の東京への進出が極端に減ったことなどが考えられます。この三月には「臨時総会」を開催し、今後の東京支部の在り方や運営の仕方について協議を行い、以前のような活気のある支部にしたいと考えています。



大阪支部の現状と活動

金築 久雄
17期(1966年卒)

昭和40年頃、多くの卒業生が大阪の教員に採用されたことを契機に新任教員の歓迎と旧交を温めることを目的として「同窓会大阪支部」が結成され約350名程の会員になっています。会員の仕事の忙しさに伴い、若干活動が鈍った時期もありましたが、諸先輩方の努力により徐々に活動を再開し、現在では年1回、大阪名物「くいだおれ」を会場に、支部総会と懇親会を主な行事として開催しています。また、事務局より会員相互の架け橋になればと機関紙「なにわの島大」の発行や年賀状の送付等を行っています。しかし、支部としての会員の高齢化に伴い懇親会等への参加の減少、また個人情報保護から会員拡大を如何に行うかが今大きな課題になっています。

島根大学教育学部同窓会



同窓会HP / <http://www.suua.shimane-u.ac.jp/edu/index.html>



医学部同窓会

活動状況

島根大学医学部の前身である島根医科大学は、「医学の向上と地域医療に寄与し人類の福祉に貢献する」という理念のもと、昭和50年に山陰の地に創設されました。当初は医学科のみの開設でしたが、平成11年に看護学科が設置され、さらに平成15年10月1日には島根大学と統合され、島根大学医学部となりました。

医学部同窓会は、昭和57年、第1期卒業と同時に発足しました。同窓会会長(佐藤利昭 1期)、副会長(岡田和悟 1期)を中心に、平成7年には大学本部(瀬島齊 4期)、中四国支部(内藤篤 1期)、九州支部(内田一郎 1期)、関西支部(森山賢治 11期)、東日本支部(細野克彦 1期)を立ち上げ、毎年各支部が世話役を担当し支部総会を開催することで、会員間の親睦を深める組織づくりをすすめています。

平成16年には同窓会会員からの公募により同窓会の名称を「萌雲会」と決めました。この名称は、出雲の地に萌え出た島根医科大学同窓会を前身とし、さらに新しい芽がのびるように同窓生の親睦の会が発展するよう願って名付けられました。

現在大学本部280名、中四国支部800名(島根県内424名)、九州支部205名、関西支部600名、東日本支部400名ですが、本年3月の卒業生を含めると総数2499名となります。毎年3月には年次総会と会誌発行をおこなっております。また、平成15年より秋の大学祭(くえびこ祭)にてパネルディスカッションを開催し、卒業生と在学生の情報交換をおこなっております。



パネルディスカッションテーマ

●平成15年9月14日(日) 同窓会記念講演

松江赤十字病院内科部長 佐藤利昭(1期)
島根大学医学部第一生化学教授 土屋美加子(1期)
関西医科大学医学部法医学教授 赤根敦(3期)
福島県立医科大学医学部衛生学教授 福島哲仁(3期)
島根大学医学部整形外科科学教授 内尾祐司(5期)

●平成16年10月16日(土) 「独立行政法人化の中で 島根大学医学部の目指すべきもの」

学長 本田雄一
大田市立病院院長 岡田和悟(1期)
島根県健康福祉部医療対策課 谷口栄作(4期)
島根大学医学部長 永末直文
島根大学医学部附属病院長 加藤謙

●平成17年10月8日(土) 「本音で語る卒後臨床研修」

島根大学医学部卒後臨床研修センター長 樋上哲哉
大田市立病院院長 岡田和悟(1期)
島根県浜田保健所所長 谷口栄作(4期)
島根大学医学部附属病院研修医 阿部哲史(23期)
島根県立中央病院研修医 勝部元紀(23期)
東京都立松沢病院研修医 大澤有香(23期)

●平成18年10月14日(土) 「地域医療人を育てるための 地域医療実習とは」

島根大学医学部長 益田順一
大田市立病院臨床研修医 西 英明(5期)
国保掛合診療所所長 本多一郎(14期)

平成19年度活動予定

平成19年6月/同窓会名簿発行

10月/大学祭 パネルディスカッション
中四国支部・大学本部主催の支部総会
1期生会開催

12月/医学研究・医学教育奨励賞・
地域医療貢献賞の選考

平成20年3月/年次総会
萌雲会会誌発行

平成16年度より、毎年3名に医学研究・医学教育奨励賞(20万円)の研究助成と1名に地域医療貢献賞(2万円)を贈っています。

医学研究・医学教育奨励賞

平成16年	佐野 千晶(13期)
	寺嶋 正治(4期)
	立花 光夫(2期)
平成17年	熊倉 俊一(7期)
	高尾 昌人(8期)
平成18年	高橋 一夫(13期)
	森山 賢治(11期)
	椎名 浩昭(4期)
平成19年	長井 篤(7期)
	森 隆治(11期)
	橋本 龍也(18期)

地域医療貢献賞

平成16年	長坂 行博(6期)
平成17年	阿部 顕治(3期)
平成18年	谷浦 博之(2期)
平成19年	久保田 博文(1期)



同窓会HP/ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/alumni/>



総合理工学部同窓会

活動状況

総合理工学部同窓会では、4年毎に同窓会総会を開催しています。この総会では、卒業生が一同に会し、親交を深めています。その際、現在活躍中の卒業生による記念講演会も催しています。平成17年10月9日に開催された同窓会総会では、中尾往三氏（土浦日本大学高等学校教諭[元文部科学省初等中等教育局主任教科書調査官]）による記念講演「教科書と学校教育」が島根大学総合理工学部3号館多目的ホールでありました。さらに、大学と卒業生及び卒業生間の交流が深まるように、総会開催の時期に合わせて同窓会名簿が発行されます（4年毎に発行）。また、平成18年2月19日には理事会が開催され、個人情報保護方針が制定されました。

現在同窓会の支部として東京支部同窓会があります。ここでは関東周辺の卒業生が2年毎に集い、親交と連携を深めています。平成18年10月14日に開催された支部同窓会には、島根大学長、総合理工学部長、総合理工学部同窓会長が出席され、総会、懇親会とともに、山本昭男氏（宇宙航空研究開発機構 執行役）による講演「我が国の宇宙開発の現状と将来像」が行われました。



総合理工学部同窓会

平成19年度活動予定

- 平成19年4月
新入生への同窓会の説明（新入生オリエンテーション）・同窓会ホームページの完成・平成18年度卒業生の動向調査完了（同窓会名簿の基礎資料）
- 平成19年12月～20年3月
総合理工学部入学予定者への同窓会入会案内・総合理工学部同窓会理事会の開催・平成19年度卒業生の動向調査開始（同窓会名簿の基礎資料）



同窓会HP/<http://www.suua.shimane-u.ac.jp/riko/index.html>

同窓生からの近況報告



宇宙開発に従事して

山本 昭男 <宇宙航空研究開発機構>
文理・理18期（1970年卒）

昭和45年3月に理理学部理学科物理専攻を卒業して早いもので37年になろうとしています。同年4月に当時の宇宙開発事業団に就職し、我が国の宇宙開発の黎明期から仕事に携わり主に衛星の運用システムや衛星そのものの開発に携わって来ました。開発に関わった衛星2機は成功裏に実験等を終了しましたが今も宇宙を飛び続けています。今はより高い視点でこれらの開発を進める立場にありますが、一時期、打上げ失敗や衛星の故障が相次ぎ国民の皆様からの厳しい叱責を受けましたが、幸い、最近では打上げも安定し衛星も多くの成果を上げることができ嬉しく思っているところです。先日は東京支部で講演の機会を得ると共に伊藤会長を始め同窓生の皆様と楽しい一時を過ごしました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

現職場の島根大学卒業生



解析センタにて

高瀬 可浩 <株式会社村田製作所>
理・化5期（1988年理学院修）

私は1988年3月に理学研究科化学専攻を修了し、村田製作所に入社しました。2年間の工場経験を経て1990年から、現職場にて組成分析、有機分析、熱分析、表面分析、構造分析などの分析技術を使って社内の依頼者に分析結果を提供するという仕事をしています。この職場には島根大学OBが私を含めて3名所属しており、共に本業務で活躍しています。学生時代は環境分析化学研究室に所属していましたので、自らの専門が活かせる職場で仕事をしていることになりましたが、分析対象や分析技術の発展には目覚ましいものがあり、日々の勉強は欠かせません。最近は顧客本位を念頭に、如何にお客様に満足していただけるサービスを提供できるか、悩める日々を送っています。



生物資源学部同窓会

活動状況

ごあいさつ

生物資源学部同窓会長 寛 弘伸

平成16年4月、島根大学は「国立大学法人島根大学」となり、自らの責任と権限で自立的な経営をすることになりました。これにより各学部の同窓会も互いに連携・協力して母校の発展に貢献するために連合体結成の動きが強まり、平成17年12月10日「島根大学同窓会連合会」が設立されたのは皆さまご存じの通りです。

わが島根大学生物資源科学同窓会もこの節目の時機にあたり、組織を強化し、会員の意識を高め、他学部の同窓会と歩調を揃えて母校の発展に寄与したいと念願するものであります。特に私たちは従来の「農学部」が「生物資源科学部」と改称された趣旨を理解して、生物、生命、生産、生活を包含する総合的な学部として、地球規模の課題に対処し地域に貢献されることを期待し、支援したいと考えております。



平成19年度活動予定

平成18年度末に、役員改選および事務局の体制強化を行い、平成19年度は新体制での活動を開始いたします。

- 平成19年4月／第1回理事会
- 平成19年8月／平成20年度に名簿発行準備予定
- 平成19年10月／平成19年度評議会開催

島根大学生物資源科学部同窓会



同窓会HP / <http://www.suaa.shimane-u.ac.jp/life/index.html>

同窓生からの近況報告



農大卒後、半世紀概算書!

前重道雅

農大農学3期(1957年卒)

昨年末、農大や女子短大時代の文芸誌同人が20人松江に集まった。司会者は50年間で5分間で喋れと云う。いろいろな分野で半世紀を走り抜けた人たちが小説や歴史書や短歌を書いている人ばかりでほとんどの人が書いたのは、硬い表紙の米や酒の専門書2冊。広島県立農業技術センター所長時代に学位論文も1冊(この間通算40年!)。県立広島大学で講義する遺伝学を歴史学と時間軸上でコラボレーションする面白さに取り憑かれて5年!。テーマは中国電力(株)技術研究センター時代5年間に手がけた中国地方に残る西条柿樹齢500年生古木の遺伝子解析から毛利尻子軍武士が接ぎ木伝播したという証明報告物である。4冊目、これで終わりだろう。



最近の研究活動

増永二之

農学部22期(1992年農学院修)

平成4年3月に農学研究科を修了しました増永二之です。平成11年12月より生物資源科学部の教員として採用され、現在は土壌をキーワードに教育研究活動を行っています。私は、修士時代から海外での研究活動を始めて、それ以来海外での研究も継続して行っています。最近、熱帯湿潤地のインドネシアでの持続的な集水域利用、熱帯乾燥地のメキシコでの耐塩性植物による土壌環境の改善等をテーマに研究活動をしています。言葉も文化も異なる環境での活動は刺激が多く、脳細胞が活性化されます。また、研究ばかりではしょうがないので、最近インドネシアなどで草の根レベルの国際協力を行う計画を少しずつ進めています。(写真:メキシコのウチワサボテンの葉です)

旧制松江高等学校同窓会

活動状況

1. 会議・集会

全国各地の支部から選出の理事による全国理事会を、東京、大阪、松江の3カ所を廻り持ちで開催し、松江での理事会の機会に全国総会を併せて開催する。

各支部では独自に懇親会、講演会、ゴルフその他の同好会などを催している。18年度に岡山支部では、在住の大坪治治先輩（95歳）（旧制松江高教授、元島根大学文理学部教授）の「大智度論のはなし」講義の会を催し、近県から集った多数の同窓生に大きな感銘を与えた。

2. 同窓会員との連絡、情報交換

同窓会機関誌「翠松」を年3回発行し、支部活動の状況、会員の動静、消息、会員の旅行記、会員の文芸作品の発表、クラス会報告等を掲載する。

3. 同窓会本部の活動

18年度には、定例の会議、機関誌の発行などの業務とともに、第10回松江寮歌祭を開催した。

島根、鳥取在住の旧制高等学校、大学予科等の卒業生を統合して松江寮歌祭振興会を結成し、全国の友に呼びかけて、松江の地での旧制高校寮歌祭を開催すること10年。去る4月には全国から30校近い旧制高校、大学予科生200余名が集り、各校自慢の寮歌を熱唱交歓した。



松江寮歌祭／於ホテル一畑

平成19年度活動予定

1. 定例の会議、集会等

同窓会全国理事会を19年度は東京で開催する。各支部では独自の企画で集会等を行なう。

2. 機関誌「翠松」の発行（年3回）

後継者のない旧制松江高校の場合、同窓会員の高齢化に伴う会員数の急減と、これに伴う各種集会の参加者の激減により、同窓会活動の様態の変化が著しい。会合のあり方の工夫が必要となっている。このため、機関誌「翠松」による情報提供、情報交換がますます重要となっている。

3. 寮歌祭活動

青春時代への回帰のよすがとなっている旧制高校の寮歌は、各地の寮歌祭への参加や、松江寮歌祭を通じて、今や同窓会員の心の支えともなっている。4月は松江寮歌祭である。

同窓生からの近況報告

醤油の力

山本 俊介

25期理甲3（1948年卒）

1979年、オイルショックからやっと脱け出すきざしが見えはじめた頃、私はイラクのバグダッドにいた。高騰したオイルマネーを使って活発に進められる建設計画にからんで、イラクの官僚と接渉するため建築の設計陣を率いての出張であった。想像を絶する高温と乾燥という我が国と対極的な風土の中で、食物はすべて何となく羊くさくさ色どりも冴えないものが多かった。神経が細い海外初体験者の中には、食欲が全くなくなり、何も食べられない者も出た。この時現れたのが外国勤務の長いO君で、差し出された小皿の中身は醤油であった。私は食べ物については、現地調達主義を貫いていて、醤油を持参することはないのだが、この時ばかりは醤油の魔力に救われたのを思い出す。



校門と本館



講堂